

米インフレ懸念で株安も市場心理悪化は限定的



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① インフレ懸念で利上げ継続観測高まる

米労働省が16日に発表した1月の米PPIは前月比0.7%上昇し、昨年12月から上昇に転じました（右上図）。変動の激しい食品、エネルギーを除いたコアPPIも前月比0.5%上昇しました。いずれも市場予想を上回る内容（同図）となるなど、今回の結果は米インフレ圧力が根強いことを改めて示したといえます。

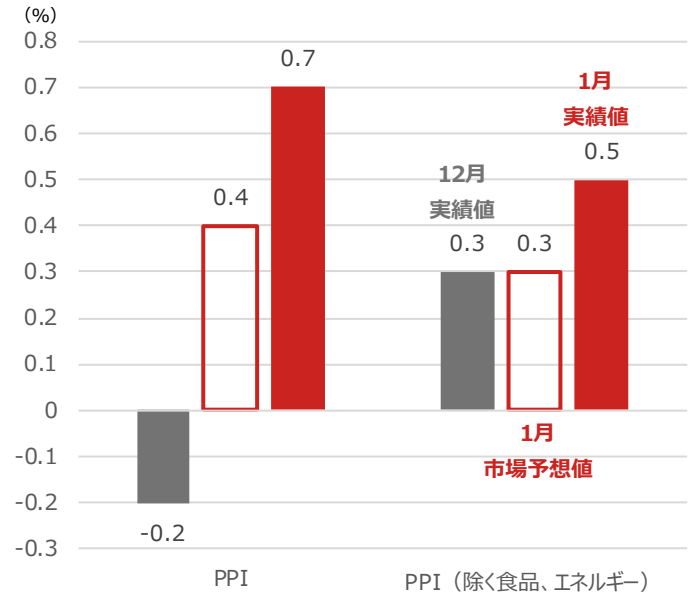
足元で米インフレの長期化懸念が高まる経済データが相次いでいるなかで、同日に米セントルイス連銀のブラード総裁が3月のFOMC（米連邦公開市場委員会）で0.5ポイントの利上げを支持する可能性を排除しないと述べました。また同日、米クリーブランド連銀のメスター総裁も、インフレの状況次第で利上げペースを再び加速させる可能性に言及するなど、市場の想定以上に米利上げが継続する可能性が高まりつつあります。

ポイント② 市場心理の悪化は限られている

こうしたなか、16日の米国市場では株安・債券安となり、米インフレと米利上げの長期化への懸念の高まりを反映した動きとなりました。

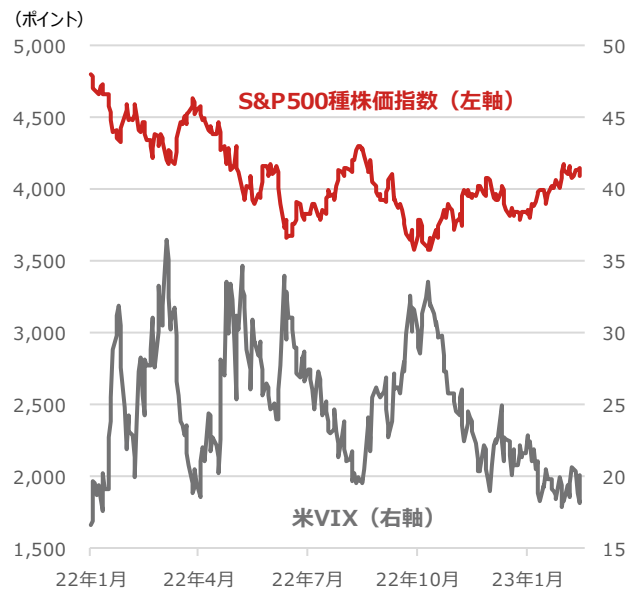
ただ、米株式市場における投資家の不安心理を表す米VIXは落ち着いており、昨年のように市場心理が過度に悪化する流れとはなっていません（右下図）。背景には昨年末に米FF（フェデラル・ファンド）金利が米PCE（個人消費支出）コア物価指数を上回る（実質FF金利のプラス転換）など、ようやくFF金利が物価抑制的な水準にまで引き上げられたことがあります。また、米家計のバランスシートが良好で利上げ環境下でも米景気が底堅さを保っていることも支えとなっており、米株式市場の下値不安は限られると考えられます。

米PPI（生産者物価指数）の前月比増減率



期間：2022年12月～2023年1月、月次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

S&P500種株価指数と米VIX
（ボラティリティ・インデックス）



期間：2022年1月3日～2023年2月16日、日次
・ボラティリティ・インデックスとは米シカゴ・オプション取引所が、S&P500種株価指数を対象とするオプション取引の変動率を元に算出、公表している指数。一般的に同指数の数値が高いほど、投資家の先行き不透明感が強いとされる。（別名：恐怖指数）
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。